

# 熊本県

定数：6名

立候補者数：4名



氏名 筒井 宏益  
氏名ふりがな つつい ひろみつ  
都道府県士会 熊本県  
年齢 62  
勤務先名称 江南病院

### 日本理学療法協会活動歴

2022年4月～ 日本理学療法士協会代議委員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2003年4月第9回県学会長  
2009年4月～熊本県士会協会理事  
2009年4月～熊本県理士会学会評議委員長  
2020年4月～熊本県士会教育学術局長  
2022年11月九州学術大会副準備委員長  
2023年4月～熊本県士会学術誌編纂委員長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

私は2009年より県士会理事、現在は教育学術局長・学会評議委員長として職能発展に邁進しております。2022年からは日本理学療法士協会代議委員を拝命し、地方の現状を本部に届けてまいりました。この歩みを加速させ職能の地位を確立すべく立候補します。学会評議委員長として公正な議論を牽引し、24年には県士会学術誌を創刊。担当理事兼編纂委員として臨床知の共有基盤を構築しました。23年九州学術大会では副準備委員長を務め、新たな学術交流を実現。私自身も日本呼吸理学療法学会の専門会員・査読者として、エビデンスに基づいた理学療法の確立に努めております。また認定スポーツトレーナーの普及や、脳卒中・心臓病等総合支援センターとの連携に注力し、地域医療の中核を担う体制を整備中です。これらの先進事例を全国へ還元し、地域包括ケアの中で我々が正当に評価される仕組みを構築します。転換期の今、研鑽環境の抜本的強化と職能拡大は急務です。地方士会と協会の強固なパイプ役となり、会員の声を反映した透明性の高い運営を行います。皆様が誇りを持って臨床・教育・研究に励めるよう、職務を全うする所存です。



氏名 波多埜 克宜  
氏名ふりがな はたの かつよし  
都道府県士会 熊本県  
年齢 48  
勤務先名称 にしくまもと病院

### 日本理学療法協会活動歴

2020年 日本理学療法士協会代議員1期目  
2022年 日本理学療法士協会代議員2期目  
2024年 日本理学療法士協会代議員3期目

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2018年度 熊本県理学療法士協会理事1期目  
2020年度 熊本県理学療法士協会理事2期目  
2022年度 熊本県理学療法士協会理事3期目  
2024年度 熊本県理学療法士協会理事4期目

2019年度 第23回熊本県理学療法士学会 学会長  
2023年度 九州理学療法士学術大会2023 in 熊本 事務局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

このたび、日本理学療法士協会代議員選挙に立候補いたしました、波多埜克宜と申します。  
私が立候補した最大の理由は、日本理学療法士協会の示す理念や事業を「現場と地域に本当に生きる形」で熊本県に落とし込み、理学療法士の価値を確実に高めていきたいと強く考えたからです。公益社団法人として、会員のためだけでなく、県民の健康と生活を支える存在として、理学療法士がより身近で信頼される専門職となることを目指しています。私は2018年度より熊本県理学療法士会の理事として活動し、各職場で理学療法士が直面する課題、そして県士会組織が抱える多くの現実的な問題に向き合ってきました。制度と現場の間に生じるギャップを埋めるためには、現場の声を正確に、そして継続的に日本理学療法士協会へ届ける代議員の役割が不可欠だと実感しています。  
代議員として、日本理学療法士協会と県士会をつなぐ確かなパイプ役となり、組織力の向上と職能発展に全力で取り組みます。理学療法士の社会的立場をさらに高め、「選ばれ、求められる職能団体」となるために、その時にできる最大限の「一所懸命」を積み重ねてまいります。皆さまの声を力に変え、行動で応えていく所存です。どうかご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



氏名 佐藤 亮  
氏名ふりがな さとう あきら  
都道府県士会 熊本県  
年齢 58  
勤務先名称 山鹿温泉リハビリテーション病院

### 日本理学療法協会活動歴

2024年4月2日～2年間：日本理学療法士協会代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2002.4～2012.3 : 熊本県理学療法士協会広報部部長  
2012.6～2024.6 : 熊本県理学療法士協会理事

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

このたび、日本理学療法士協会代議員選挙（熊本県選挙区）に、前回に続き2期目の立候補をいたしました佐藤です。  
私はこれまで熊本県理学療法士協会の理事を12年務め、組織のビジュアルアイデンティティ（VI）の確立やBCP（事業継続計画）策定、活動のスリム化など、時代に即した組織改革に邁進してまいりました。  
特に注力してきた災害リハビリテーション分野では、2017年に開発した教育教材「REHUG（リハグ）」が、現在は日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）のLスタッフ必須研修に指定されるなど、熊本の知見を全国へ発信し続けております。  
前回の当選から2年間、代議員として現場の声と協会の意思決定をつなぐべく、職能の未来を見据えた議論に参画してまいりました。現在、日本理学療法士協会会員の約7割が40歳以下という若い組織へと変化しています。熊本県の約2500名の会員の皆様においても同様であり、次世代の声に耳を傾けることは急務です。  
私は、「若い世代の声を吸い上げ、協会活動に反映させること」を最優先に掲げます。会員の声が届く協会であるために、そして次世代が誇りを持てる職能であるために、強固な「つなぎ役」として再び全力で取り組む所存です。皆様の清き一票を、何卒よろしく願ひ申し上げます。



氏名 田島 徹朗  
氏名ふりがな たしま てつろう  
都道府県士会 熊本県  
年齢 66  
勤務先名称 九州中央リハビリテーション学院

#### 日本理学療法協会活動歴

2009年～2012年度	日本理学療法士協会	九州ブロック研修部協力スタッフ
2010年～2025年度	日本理学療法士協会	代議員

#### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

1986年～1987年度	鹿児島県理学療法士協会	教育部 副部長
1994年～1999年度	熊本県理学療法士協会	学術部 部長
2000年～2013年度	熊本県理学療法士協会	理事
2014年～2023年度	熊本県理学療法士協会	副会長
2024年～2025年度	熊本県理学療法士協会	監事

#### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

2023年度	九州理学療法士学術大会 in 熊本	準備委員長
--------	-------------------	-------

#### 立候補の趣旨

少子高齢化問題を中心に医療を取り巻く環境も大きく変化しています。今後も人口減少に伴った社会保障問題をはじめ、新たな医療体制の構築は急務となっています。

病院完結型から地域完結型へとシフトしていく中で、「理学療法士として何が出来るか」は、大きな課題となっています。地域ならではの問題と課題を中央に伝え、地域の活性化を図り、中央から地方だけではなく、地方から中央をささえられる組織づくりを大切にしたいと考えています。

また、養成校に所属しているため、理学療法士をめざす若者に未来ある組織の歩みや夢を伝えることで、医療の中心として夢をもって活躍できる人材育成を使命としています。